



Matsubara-syo Chronicle

VOL. 7, R8.2.26



50TH ANNIVERSARY



時代を彩るブーム

現在、子どもたちの間では、Nintendo Switch2や、お気に入りのユーチューバーなど、様々なブームや推し活が巻き起こっていますが、1976年に開校した松原小の50年間にも様々なブームがあったようです。本記事ではその一部を紹介します。

【昭和51年ころ】

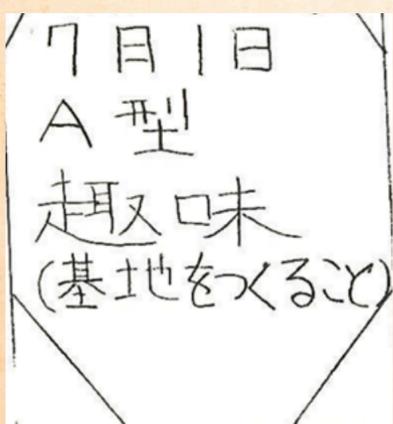
開校当時の流行を語るうえで外せないもの、それは「およげたいやきくん」（子門真人の曲。発売は1975年）史上唯一のクアドラプルミリオン（400万枚）越えという偉業を成し遂げた、日本が誇る名曲です。

【昭和58年ころ】

1983年には、任天堂から家庭用ゲーム機『ファミリーコンピュータ』（通称：ファミコン）が発売されました。ゲームセンターと同じようなゲームが遊べるとのことで、人気を博しました。

【昭和60年ころ】

本校では、1985年から、卒業文集とクラスページが始まりました。クラスページには、定番の「自己紹介」のコーナーがあり、好きなものとして『北斗の拳』や『ファミコン』などがあり、アニメやゲームが好きという点では、現代の子どもたちと通ずるものがありました。



その中で、気になるものを見つけました。それは、『秘密基地』です。本記事をお読みになっている方の中にも「ああ、作ったなあ」と思われている方もいるのではないのでしょうか。ご存じの通り、松原小学校は豊かな自然に囲まれた環境にあります。当時の航空写真を振り返ると、今よりも緑が多く、秘密基地を作るにはかっこうの場所であったことが窺えます。秘密基地の魅力は、自分たちだけの特別な空間が作れることです。樹木や使い捨てられた「ござ」、その他さまざまな廃材を用いて友達と試行錯誤しながらお気に入りの基地ができるまで夢中になるものです。適度な閉塞感が友達との物理的な距離だけでなく心の距離も縮め、居場所を感じられる場所でもあったのでしょう。当時の松原っ子にとって友達同士だけの特別な空間があったことが想像されます。

当時の流行を振り返ると、いつの時代も本質的には変わらないなあと思う部分もあれば、現代ではあまり耳にしないような昔ならではの流行があり、今こうして聞くと、かえって新鮮さすら感じる素敵なブームがそこにはありました。